

■ようやく1部も実戦開始、北海学園大が3連勝。第4節

新型コロナウイルスに翻弄された第48回北海道学生選手権は第4節の9月19日、ようやく1部の初実戦が行われた。北海学園清田グラウンド（札幌市清田区）で北海学園大（前年優勝）と帯広畜産大（同4位）が対戦し、北海学園大が52-6で快勝した。北海学園大は不戦勝を含めて3連勝、帯広畜産大は不戦敗を含めて2連敗。

この日は台風14号の影響で、会場を札幌・厚別公園競技場から変更して行った。試合途中から雨脚が強くなるあいにくのコンディションだったが、2戦連続の不戦勝で、実戦を待ちかねていた北海学園大の攻撃が、試合開始のキックオフリターンから爆発した。WR寺川隆吾（4年、北海高）がいきなり、90ヤードのリターンTDで先制すると、第1Q1分にはQB河合祐輔（4年、札幌第一高）からWR寺川へ20ヤードのTDパス。同4分にもQB河合からWR寺川へ26ヤードのTDパスが決まり21-0。一気に試合の主導権を握った。第2Qも1分にRB丸川祐生（4年、北海高）が3ヤードTDランで加点すると、同8分にはDL藤田丈慈（4年、札幌手稲高）がパントブロックしたボールを、そのままエンドゾーンに持ち込みTDとリードを広げた。



後半も北海学園大の猛攻が続いた。第3Q5分、RB丸川が6ヤードTDランを決めると、同11分にはDB/K野崎蒼（4年、札幌手稲高）が28ヤード

ドFGを蹴り込んだ。第4Qには1年生のRB渡辺爽太（札幌厚別高）がダメ押しの3ヤードTDランを決めた。

帯広畜産大は、自慢のラインを生かしてRB堂地和寿（4年、帯広柏葉高）、RB三島太呂（4年、帯広農業高）、RB石村周也（2年、札幌清田高）らがゲインを重ね、第2Q終了間際にQB外崎智文（2年、大野農業高）からWR松田愉慎（4年、帯広三条高）へ18ヤードTDパスを決めたが、後半は人が相次ぎ、反撃も及ばなかった。



北海学園大の高木幸樹ヘッドコーチは「守備が少し浮き足立った」と反省しながらも「ランプレーで下級生に経験を積ませたかった」と余裕も見せた。3TDのWR寺川は「キックオフリターンTDでいい流れになった。実戦まで時間が空いたが、気持ちを切らさないように4年生を中心に確認してきた」と好発進に手ごたえ十分。2TDランのRB丸川は「初戦のTDがぜひとも欲しかった。ランユニットのレベルをもっと上げたい」と意欲を見せ、QB河合も「質の高い練習を重ねてきた。パスだけでは勝てないので、ランも合わせてチーム力を上げたい」と力を込めた。

帯広畜産大のWR松田は「TDキャッチはマンツーマン守備に競り勝ってキャッチした。あと3試合、足を生かしてロングパスを決めたい」と巻き返しを誓った。